

第13回小笠原諸島世界自然遺産候補地科学委員会 地域連絡会議  
議 事 要 旨

<日時> 平成22年6月11日(金) 16:30~17:30

<場所> 地域福祉センター2階 会議室

<議事>

- (1) 前回会議以降の各種会議の報告について
- (2) 平成21年度の事業成果及び今年度の事業実施計画について
- (3) 国際自然保護連合(IUCN)による調査の行程等について
- (4) その他(連絡事項等)

<要旨>

- ・委員会は公開で行われた。
- ・前回会議以降の各種会議の結果について、事務局より報告し、奥富前委員長が科学委員会の委員を勇退し、新たな委員長として大河内委員が選出されたことについて報告した。
- ・平成21年度の事業成果及び今年度の事業実施計画について、事務局より報告した。
- ・国際自然保護連合(IUCN)による調査の行程等について、事務局より説明を行い、委員に対し、視察者の歓迎会、意見交換会等で視察員から説明を求められた場合は積極的に協力してもらうよう依頼した。自然環境保全と産業・暮らしとの関わりについては今後議論していくこととした。

<議事概要>

- 1) 前回委員会以降の各種会議の結果報告について
  - ・環境省小笠原自然保護官事務所立田首席自然保護官より、資料1を用いて、前回委員会以降の各種会議の結果の報告及び今年度の予定が行われた。
  - ・奥富前委員長が遺産推薦をもって科学委員会の委員を勇退することとなったため、新たな委員長として大河内委員が選出されたことについて報告が行われた。
  - ・以上の報告を受けて質疑応答はなし。
- 2) 平成21年度の事業成果及び今年度の事業実施計画について
  - ・環境省立田自然保護官、林野庁原田センター長、東京都今井副参事、小笠原村柴垣副参事より、環境省作成のリーフレット及び資料3を用いて、平成21年度の事業成果及び今年度の事業実施計画について報告が行われた。また、以下のような補足説明が行われた。
    - 林野庁：昨年度までは生態系保全対策室を設置していたが、今年度からは世界遺産登録への対応や、外来種対策を行うために生態系保全センターとなり、3人体制となった。
    - 東京都：プラナリア対策としては、今年度から父島のははじま丸乗船時においても靴底洗浄を行うよう施設を作って対策を充実させていく予定である。
    - 小笠原村：獣医師会の派遣診療に関しては、今年度から村で予算化し、要請していく予定である。

また、南島のシンクリノイガ等駆除については、昨年度は実施しなかったが、要望があることから、今年度は実施を検討している。

- ・以上の報告を受けて質疑応答はなし。

### 3) 国際自然保護連合 ( I U C N ) による調査の行程等について

- ・環境省小笠原自然保護官事務所立田自然保護官より、参考資料5を用いて、国際自然保護連合 ( I U C N ) の視察者の略歴について説明した。
- ・小笠原村柴垣副参事より資料2を用いてIUCNによる調査の行程等について説明した。
- ・立田自然保護官から、委員に対し、視察者の歓迎会、意見交換会等で視察員から説明を求められた場合は積極的に協力してもらうよう依頼した。
- ・以上の説明を受け、委員より以下のような指摘がなされた。

委員：前回会議において、地域連絡会議は科学委員会の科学的評価やコメントを聞くだけではなく、自然環境保全と世界遺産登録という目標と産業・暮らしとの関わりについて議論する場に移行すると決めたはずである。

環境省：管理計画がまとまり、今後は行動に移す必要があると考えている。管理計画では大雑把に行動指針が示されているだけの項目もあるので、具体的な進め方については今後議論していきたい。

委員：視察の行程に記者会見があるが、視察に随行するマスコミ関係者は多いのか。

環境省：現時点では不明。恐らく登録制になると思うが、登録はまだ行っていない。

委員：小笠原にマスコミ関係者が数日間滞在するのは容易ではない。観光協会としては小笠原をアピールするチャンスだと考えているので、東京でも記者会見をする場を設けてほしい。

環境省：IUCNの記者会見を同様の内容で現地と内地で2回することの意義は小さい。詳細については未定であるが、内地では視察終了の報告として記者会見を開くことが検討されている。行政として小笠原の取組を伝える良い機会だと考えているのでできる限り発信していきたい。

委員：平成22年度以降の事業計画にオオコウモリの保全対策が記載されていない。冬期ねぐらの保全対策をどのように検討していくのか。鳥獣保護区の指定があるが、本来ならば公有地化を目指すべきである。また、庭などの人間の活動域にオオコウモリは飛来するため、農業対策だけで済む問題ではない。現地関係機関が計画を作成するという方針は決まっていたはずであるが、どのように進めていくのか。

環境省：計画作成の作業が遅れている状況である。視察前の対応にはならないが可能な限り早急に対応したい。

オブザーバー：オオコウモリと住民生活との問題がIUCNの視察に堪えうるのかが心配である。管理計画では自然との共生の説明項目がほとんど空欄のままである。ガラパゴスが危機遺産になってしまったのは生物の保全と住民生活との問題があったからであり、小笠原においても同様の問題で注目される可能性が高い。視察までに、少しでも前向きな方向を導きだすための議論をすべきではないか。

環境省：視察には今後の考え方も含めて前向きな回答をするつもりである。オオコウモリに関し

ては住民生活との問題があるが、逆に例えばウミガメに関しては共生できているので、視察の際にはそういった強みをアピールしていくことが重要。

委員：意見交換会はどのようなものを想定しているのか。

環境省：知床では IUCN から特定の質問を様々な機関にしたようである。意見交換会については視察者の要望を踏まえて検討していく予定である。限られた時間の中でできる限り効率的に意見を伺えるようにしたい。

委員：多くの関係者から意見を吸い上げる方法を検討して欲しい。

#### 4) その他

- ・東京都より、以下の4種のリーフレットの説明が行われた。

世界自然遺産推薦地小笠原：小笠原の世界遺産としての価値等を説明。島じまん等の各種イベントや竹芝で配布。7月上旬に全戸配布予定。

自然遺産ガイド(父島版、母島版)：父島・母島の遺産としての価値や外来種対策の場所がわかるようなマップ。7月上旬に全戸配布予定。

小笠原を探検してみる。：昨年度のビジターセンターでの展示をリーフレット化。今後、小中学校に配布し、教育活動に役立てることを想定。

小笠原村：現在、ガイド制度の構築に向けて検討を進めている。またルールブックの改訂を行っており、7月上旬に全戸配布予定である。

委員：今年度、ノネコ対策が全島規模で始まる予定であり、小笠原ネコに関する連絡会議が民間助成金を使ってノネコ一時飼養施設を建設した。施設の開所式は6月13日に開催し、これまでの取り組みを発表する。

環境省：昨年度、おがさわら丸で実施した外来種対策に関するアンケートと似たアンケートを、今年度も実施する予定なのでご協力いただきたい。

以上